

法人化と技術部の取り組み

熊本大学 工学部 技術部

神澤 龍市

第5回広島大学技術センター研修会

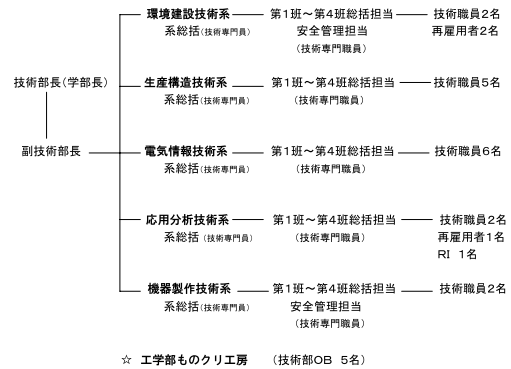
法人化と技術部の取り組み

熊本大学工学部技術部 神澤龍市

1

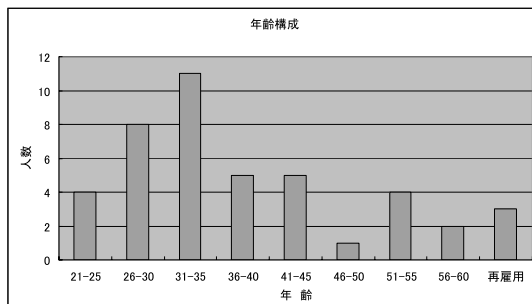
組織紹介

平成20年10月1日現在(43名+1)



2

年齢分布 (2008.4.1現在)



3

業務の流れ

業務依頼システム

- 1) 業務受付・開示
- 2) 調整 (副技術部長、技術系総括)
- 3) 受託・変更・終了通知
 - ・グループ (専門技術融合・連携) 業務模索

評価システム

業務報告

- 1) 技術報告会・ミーティング業務報告
- 2) 人事評価システムの活用
 - ・育成面談 (業績評価、能力評価)
 - ・目的に向けてベクトルを一致させる

4

組織評価で振り返る

- ・ 組織評価とは
- ・ これまでの再確認
- ・ 技術部の組織評価に向けた取り組み

5

組織評価とは

- ・ 組織に関する自己点検・評価
- ・ 教育研究支援の現状と課題を明らかに
- ・ 活動の一層の活性化を促す

- ・ 工学部の教育、研究、管理運営、その他
- ・ その他 (技術部: 学部の特徴ある組織)
- ・ 法人化“前と後” 良くなった所は

6

これまでの経緯

平成10年12月	技術部の再組織化
平成14年	実質稼働体制へ
平成15年	技術部の中期目標・中期計画(案) 業務の3主要軸(教育研究支援・安全管理・地域貢献)
平成16年	国立大学法人熊本大学の発足 業務依頼システムの導入
平成17年	業務の自己点検・評価を導入
平成19年	人事評価制度の導入 自己点検・評価(組織評価) ものづくり教育支援プロジェクト
平成20年度	外部評価(法人評価)
平成21年度	認証評価、次期中期目標・中期計画策定

7

技術部の中期目標・中期計画

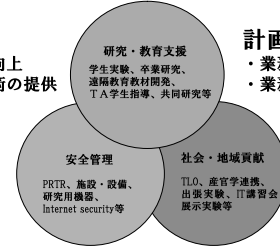
(平成15年度)

目標

- ・技術力の向上
- ・高度な技術の提供

計画

- ・業務の自己点検・評価
- ・業務依頼システムの構築



【業務の3主要軸】

8

20年度技術部の重点目標(自己点検・評価票)

業務計画(年度当初に作成、年度途中で追加等があればその内容も記入)		
領域	項目	重点(業務)目標
教育支援	専門域を超えた学生サービス ものづくりプロジェクトへ参画	ものづくり教育支援の試みとして、技術職員が専門域外の学科学生に対して可能な範囲で、基礎技術の提供指導を試行する。
研究支援	研究施設・機器と技術職員 機器検査システムの構築	技術職員の技術と研究施設・機器との関連を明らかにし、業務依頼の充実と研究者・学生へのサービス向上を図る。
社会貢献	中学生を対象とした技術相談会 コンクリートコア圧縮、石炭灰 フライアッシュ委託試験等	中学生が自主性を発揮できるような、技術アドバイスやアフターケアの充実を図る。 通常業務に支援をきたさない範囲で、地域と連携していく。
管理・運営	各技術系会議内容の更なる充実 人事評価システムの効果的活用	職員間および学科間との連携を推進させるため、ミーティングでの業務報告等を実施し進める。 今年度からの本格実施と昨年度の試行結果を踏まえて、人事課とも協働しながら、より良いシステムづくりを検討していく。
スキルアップ	学内外での技術発表等の充実 個別研修の充実と資格の取得	112年度熊本大学総合技術研究会を成功させるため、技術発表の機会を与える配慮をする。 グループ研修を充実させると同時に外部機関等が関係する研修に積極的に参加を促す。同時に資格取得とその活用を図る。
外部資金活用	奨励研究 地域貢献を活かした外部資金獲得の拡充	20年度の授産者および採択率を考慮して、次年度申請に向けて講習会を企画実施する。 コンクリートコア圧縮、石炭灰フライアッシュ委託試験も今年度終了する。新たな資金獲得に向けて検討を進める。
その他	安全管理	衛生管理者や補助者、安全・環境保全委員会(委員・安全推進員)、クレーン点検WGなど、担当者の動きやすい環境づくりを進め、学部の安全管理に貢献する。

9

技術部の組織評価に向けた取り組み

- ・組織に関する自己点検・評価(以下、組織評価)
教育研究等における現状と課題を明らかにし、活動の一層の活性化を促すこと
- ・6年に1回実施される(国立大学法人評価委員会)
- ・評価の領域
「教育」「研究」「管理運営」「その他」
「その他」学部として特色ある事項を記載
→ 技術部の学部における教育研究支援
地域貢献、安全管理、その他の業務体制を記載

10

技術部の組織評価

評価の基準

1. 技術部の目的
2. 技術部の活動体制
3. 技術部の管理運営体制
4. 技術部の業務サービス向上
および改善のシステム

評価の基準

- 評価の項目
- 評価の観点 - 根拠となる資料の添付

11

評価項目

1. 技術部の目的
 - 1-1 教育研究支援組織として
技術部の目的が明確に定められているか
2. 技術部の活動体制
 - 2-1 学部学科等の教育研究支援や教育研究施設の安全管理支援など学部の運営に必要な技術部組織が整備されているか
 - 2-1 学部学科等の教育研究支援に向け技術部の組織が適切に機能しているか

12

評価項目

3. 技術部の管理運営体制
- 3-1 学部として技術部の目的達成に必要な組織の管理運営体制を整備し、また、それぞれが適切に機能しているか
- 3-2 技術部の管理運営に関する方針が明確に定められ、構成員の職務と権限が明確に示されているか
- 3-3 技術部構成員の活動の拠点となる施設（居室）が適切に整備され、有効に活用されているか

13

評価項目

4. 技術部の業務サービス向上および改善のシステム
- 4-1 活動の状況について点検・評価し、その活動にもとづいて、改善・向上を図るための体制が整備され、運用されているか
- 4-2 職員の研修など、その資質向上を図るための取組が適切に実施されているか

14

4-1 人事評価制度の導入

人事評価制度の導入の最大のねらい
教育や研究、および地域貢献等について

1. 職員が能力を最大限に発揮できるよう組織の目的をはっきりさせる
 2. 職員各位が同じベクトルを持って効率よく仕事ができる環境を構築する
- 育成面談の実施

15



4-2 技術報告会

2008.9.11.-12.

参加95名
学外10機関29名
学内13部署24名
技術部42名
O-12,P-20,S-3,K-3



16

評価の観点(記載例)

2. 技術部の活動体制 (評価基準)
- 2-1 学部学科等の教育研究支援や教育研究施設の安全管理支援など学部の運営に必要な技術部組織が整備されているか (評価項目)
- 2-1-6 (評価の観点)
技術部が組織として社会貢献などの活動を行っているか
- ★ 必要と考えられる資料・データ
 - 中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会
 - 企業や自治体からの受託試験（コンクリート、フライアッシュ）
 - 他大学技術部等に対する組織運営・活動支援、技術供与など

17



2-1-6 自由研究相談会

平成15年～6回連続開催
20年度応募者155名
(内県外から35名)

18

評価の観点(記載例)

2. 技術部の活動体制 (評価基準)

2-1 学部学科等の教育研究支援や教育研究施設の安全管理支援など学部の運営に必要な技術部組織が整備されているか (評価項目)

2-1-5 (評価の観点)

技術部の組織が国指定重要文化財の保守管理に必要な十分な活動を行っているか

★ 必要と考えられる資料・データ

- 国指定重要文化財の保守管理の活動実績
- 日本機械学会機械遺産指定など外部からの評価を示す資料
- 工作機械の動態保存化に関する整備記録 (法人化以前)

19



2-1-5 資料館コンサート

主催：
工学部研究資料館
五高記念館
教育学部音楽科
共催：
技術部
五高記念館友の会

20



4-1 技術部年次報告集 & 技術報告会講演・技術報告集

21



4-1 自己評価書・根拠資料

22

これからの教育研究支援

現在の中期目標・中期計画の達成度
運営交付金と職員の雇用形態に影響？

運営・経営の効率化と高度化する研究
技術部も変わる
必要とされる仕事 → 人の配置

第二期中期目標・中期計画の策定

大目標「高度な専門技術の融合と人材育成を通して教育・研究の向上に寄与できる技術者集団を目指す。」

23

高度化する研究支援への対応

1. 技術職員の技術と研究施設・機器との関連を明示
業務依頼の充実と研究者・学生へのサービス向上
→ 高度分析機器・試験機等の検索システムの構築
2. 技術系及び技術職員間の専門技術の連携と融合
3. スキルアップへの取組 (研修制度→認証評価*)に
技術部 → 研修 (企画・予算・旅費)
個人 → 科研費 (学術振興会・学内奨励研究)
科学技術振興機構 (JST)
(シース発掘試験研究)
大学院 (社会人入学制度)
大学・研究所間の技術交流
技能検定・資格取得
海外研修

* 大学評価・学位授与機構他

24

まとめ

1. 実働化を目標～法人化への対応
 - ・組織的に業務遂行できる基礎の確立
 - ・教育研究支援・安全管理・地域貢献が柱
2. 反省点
 - ・業務調整（系総括、班総括（専門職員））
 - ・技術融合と連携（技術系の壁）
 - ・広報活動（年次報告集、技術報告集、HP見直し）
3. 次期中期目標・計画
 - ・職員個々の技術力向上への施策
 - ・技術の融合と連携による高度で柔軟な対応
 - ・評価と意欲が得られる体制づくり

25

熊本大学総合技術研究会

平成23年3月17日（木）、18日（金）
熊本大学黒髪キャンパス



26